

平成 31 年度 第 1 回学校支援地域本部事業 運営委員会（議事録）

平成 31 年 4 月 24 日(水)

我孫子市教育委員会大会議室

10:30～

1. 開会(川村)

2. 会議の公開について(川村)

傍聴人なし

3. 教育長挨拶

今年度より運営委員会の組織を整え、このような形でやっていきます。この会議では全体の方針を確認し、その後学校に周知するよう進めていきます。

学校は、地域の力が必要です。中学校区をどうしていくか、子どもたちの学習にどう生かしていくのかをみんなで考えないといけません。そのためにも、学校支援地域本部、地域コーディネーターの力が必要になっていきます。それぞれの立場で学校に対しよりよい環境を作っていきましょう。

4. 協議

・我孫子市学校支援地域本部事業実施要綱の一部改正について
承認されました。

・平成 31 年度活動方針

事務局 平成 31 年度我孫子市学校支援地域本部事業についての資料をご覧ください。国、県の「地域と共に歩む学校づくり推進支援事業」に基づいていますが、今後「地域学校協働活動」へ移行するように県より言われています。資料の中の地域学校協働活動の概念図をご覧ください。学校教育、家庭教育、社会教育の三者を緩やかなネットワークをもって形成し、地域と学校がパートナーとして連携していくことを目指しています。

我孫子市では学校支援地域本部事業の中で学習支援、安全確保、環境整備、学校行事支援等依頼を受け保護者、地域住民、学生・生徒のボランティア等によって行われています。これについては今後も継続、拡充の方向で考えています。

地域学校協働活動のネットワークの一部として学校支援地域本部事業があり、今行っている内容をもってこの事業をとらえていくことでご理解いただきたく思います。

平成 31 年度の基本方針ですが、大きく三つあります。一つ目は小中一貫

教育のベースとなる中学校区を単位として活動すること、二つ目は我孫子市の学校支援地域本部と、各校の学校支援地域本部とより一層の連携を図っていくこと。三つ目は各学校でのニーズに合わせた支援活動をそれぞれのところで、きちんと計画実施させるように進めていくということです。

活動の方針と取り組みについては、中学校区のなかでコーディネーターの代表を決めていただくこと、生涯学習や社会福祉などの地域ボランティア、近隣の大学、高校へ働きかけて学生・生徒のボランティアを推進していければと思います。この事業を推進するにあたり、学校の担当者だけに負担がいかないように配慮する必要もあります。

学生・生徒のボランティアに関しまして川村学園女子大学、中央学院大学、聖徳大学と協定を結んでいます。

以上平成 31 年度の活動の方向性と取り組みになります。

司 会 何か、質問等ご意見がある方はいますか？

高橋委員 同じ補助金を活用しているので、内容のほうは理解しています。現在国、県と我孫子市では子どものためという点では同じであります。手法は少し違っています。ネットワークの構築は必要であると考えていますので、今後も連携をとっていきたいと思います。地域学校協働活動となるとより大きな枠組みになります。大変なものだとは思いますが、わたくしたちの担当の中ではそこを目指していきたいです。

司 会 基本的には目指していることは同じですね。

国の方針が、以前出ていたものと変わってきているかと思えます。

私の受け止め方としては、地域を中心とした昔の社会の中で普通に行われていたことが、そうではなくなってきた、分担されていたそれぞれの事業の中で、もう一度できることを見直しながら、昔の地域を中心としたイメージで包括して、子どもたちを見守っていくということに近づけていこうということが、国のイメージなんです。それは変わらないと思います。それをどういう風にやっていくかをこういった会議で確認しあいながら、自分たちは何ができるかを話し合いながら継続していけば、名称にかかわらずやっていけるんじゃないかと思えます。

事務局 基本は地域全体で子どもたちの学びを支える、といったことが昔から言われています。具体的どうすればいいのかということについては、資料の1-②に地域学校協働活動推進員の定義が社会教育法の中に出ています。これが出ている背景は、コミュニティースクールを進めていくために、その中の構成員として社会教育法上定義しています。我孫子市ではコミュニティースクールということになると、それはまた大きく学校が変わっていくことになってしまう。そのことについては、よく検討していきたいです。

司会 コミュニティースクールというものは、国が進めていきたいもので、コミュニティー

ースクールとはあっても内容はさまざまであります。国が考えているやり方をし
ていくところもありますし、緩やかに移行していく方法もあります。学校支援地域
本部に近いようなやり方で進めて、名前をコミュニティースクールとしていると
ころもあります。やり方は各市町村で違っていいんだと思います。いきなり目指
していくことが難しいから、工夫しています。我孫子の工夫の中で、今はこの学校
支援地域本部というものをベースとしてどんなことができるか、それをどんどん
進めていくと目指すべきものがコミュニティースクールに近づいていくのかもし
れない。今の段階ではいろいろな試行錯誤があつていいと思います。国のイメ
ージはおさえた上で我孫子的なものを作り上げていけばいいです。

高橋委員 学生、生徒のボランティアはどんなことをしますか。

事務局 大きくは学習支援、環境、行事支援。年度の終わりごろに来年度の希望を各
学校に調査します。その一覧をつくり、それを随時のものと、通年のものに分け、
大学・高校に年度初めに渡し、各学校のガイダンスの中で学生・生徒がボラン
ティアに応募するといった形です。高校生は学校が休みの日、大学生は授業に支
障がない時間帯でボランティアをします。

司会 大学によってはそれを単位認定するところもありますよね。

そういった形で広がっていくとボランティアもしやすくなりますよね。

東委員 企業なども採用のときに学校でボランティアをしていたという興味を持ちます
よね。地域でのボランティアの経験は採用面接のときにポイントになります。

司会 地域ボランティアに積極的に参加したという経験は有利になります。

東委員 緩やかなネットワークといった形で、我孫子はできているように思います。我 P
連としてなにかできることはありますか？

事務局 PTA の皆さんはもうすでに学校へのボランティアとして入ってもらっている。また
新たな部分でできることがあればお願いしたいと思っています。我 P 連には学校
支援地域本部のことを理解してもらえればと思います。

司会 では基本的にこの内容で事業を進めさせていただきます。

事務局 今までも進めてはいますが、これからも緩やかなネットワーク作りを目指してい
こうと思います。うかかないところもあるかもしれませんが、その都度皆さんの協
力を仰ぎながら進めていきたいと思っています。

次回の運営委員会は令和 2 年 2 月 18 日になります。よろしくお願ひします。